



船橋市消防局 採用関連 よくあるQ&A



例年、船橋市消防局の採用を志望する方や採用が決まった方々からよくいただく質疑について、以下のとおりQ&A形式でまとめました。

当局で採用を志望される方は、是非ともご覧いただき、当局の採用試験を受験いただければと思います。

ご興味がある方も是非ご覧ください。

～ 船橋市消防局について ～

Q： **船橋市消防局の強みは何ですか。**

A： 人口65万人を超える中核市最大の都市であることです。商業、農業、漁業など様々な産業のバランスがとれており、街と自然が調和した活気ある街です。交通網も発達していて、人が多く集まり、今後ますます発展が期待されている都市です。このような魅力溢れる街を守るという「誇り」を持てることが当局の強みだと思います。

Q： **船橋市消防局の力を入れている取り組みを教えてください。**

A： ①人材育成に力を入れて取り組んでいます。
人材育成には時間が掛かりますので、最も重要であると考えます。
また、近年は定年退職者が増えたことにより、採用人数が増えたことから組織の若返りは図れていますが、退職世代が培ってきた経験や知識、技術を継承するなど、若手職員の人材育成に力を入れています。
②船橋市消防局では女性消防吏員の計画的な増員に取り組んでいます。

Q： **他市と比べた船橋市の特徴は何ですか。**

A： ①ドクターカーの運用
平成5年4月から全国初となる24時間医師が同乗し、出動するドクターカーの運用をしており、現場で医師にしかできない救急救命措置をおこなっています。
②転院搬送隊の運用
転院搬送に特化した救急隊を救急ステーションに配置することで、一般の救急隊の負担を軽減するとともに、救命率の向上及び救急体制の充実強化を図っています。※ 転院搬送とは、より高度な医療行為が緊急に必要な患者を、ほかの医療機関へ搬送することなどを言います。
③三交替制勤務
全国の各消防本部ではほとんどの消防本部が二交替制勤務(24時間勤務)

をとっておりますが、当市では三交替制をとっています。

『当直日』、『家に帰る日になる非番日』、『丸1日休みとなる週休日』を1サイクルとして、3日に1回24時間勤務を行っています。

詳細は以下のURLからご確認ください。

<https://www.city.funabashi.lg.jp/kurashi/shoubou/012/p081232.html>

三交替制は、二交替制に比べて体を休める時間が多く、プライベートな時間も多く確保できます。

④海水等を利用した大規模消火システムの運用

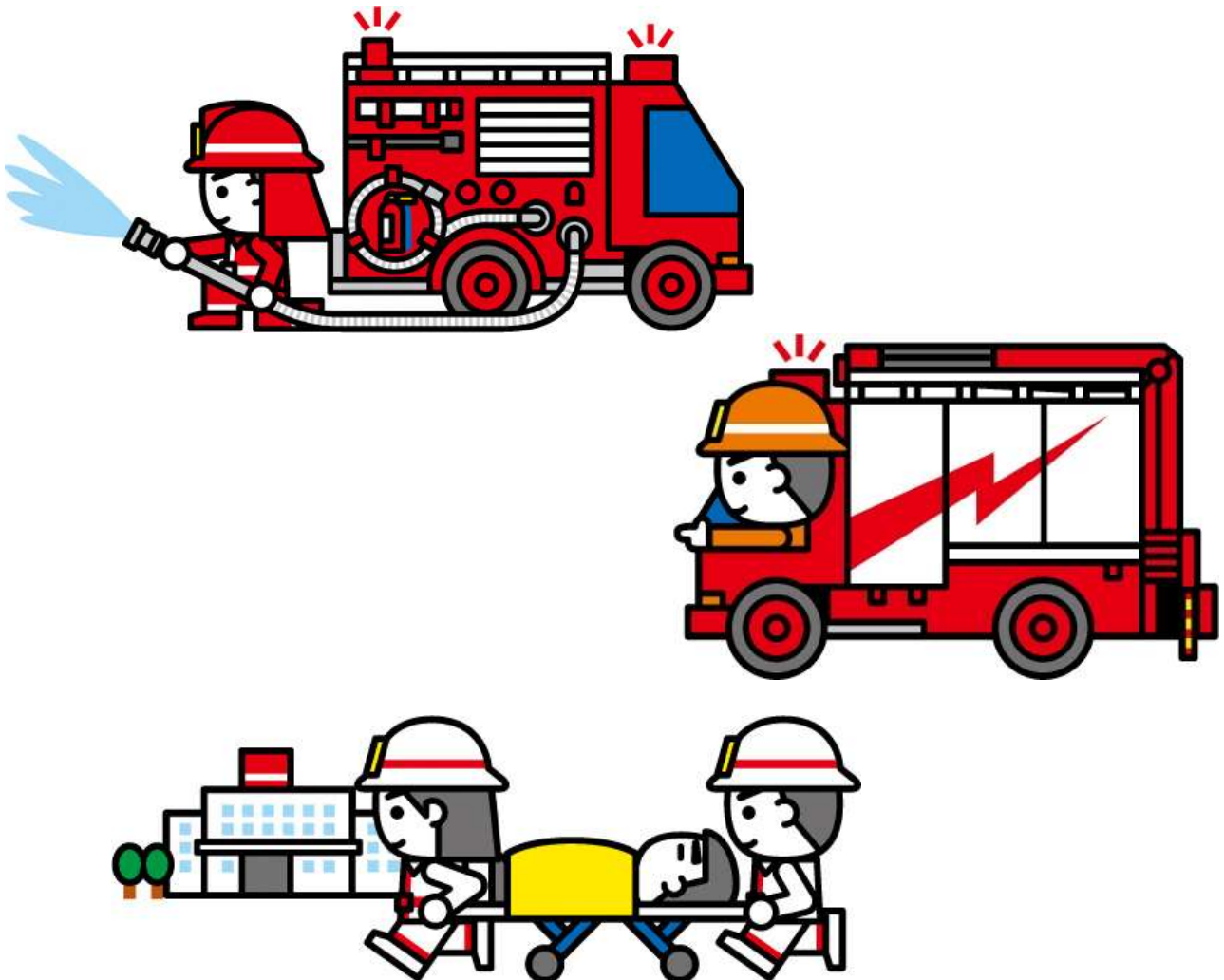
このシステムは、地震発生時に断水により消火栓が使用できなくなった場合に、下水道などを使用して東京湾の海水を内陸に引き込み消火に利用するものです。

このシステムでJR船橋駅南側を中心とした密集市街地の消火活動にあたります。詳細は以下のURLからご確認ください。

<https://www.city.funabashi.lg.jp/kurashi/shoubou/002/p000607.html>

⑤スポーツチームとの連携

プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」とジャパンラグビーリーグワンの「クボタスパース船橋・東京ベイ」の2チームとホームタウンとして協定を結んでおり、火災予防意識の向上のための広報活動などにご協力いただいています。



～ 消防局の採用について ～

Q： 船橋市消防局はどのような人材を求めていますか。

A： 以下の①～④に挙げる人材を求めています。

- ①強い使命感と高い倫理観を持つ職員
- ②良好なコミュニケーションがとれる職員
- ③自主的に考え行動できる職員
- ④持てる力を遺憾なく発揮できる職員



これは船橋市が公表している「求める人材像」であり、消防局も同様に重視しています。詳細はホームページをご参照ください。

また、消防は階級制度となっていることから厳格な規律が求められますので、節度をもった礼儀正しい態度がとれる人材であることも重要です。

Q： 採用人数は何人ですか。

A： 毎年5月初旬から中旬及び7月中旬頃にホームページ上にてお知らせしています。

Q： 男性で身長が小さくても消防士になれますか。

A： 当局では身長に関して基準を設けておりません。男女問わず、受験案内の健康検査にある項目の基準を満たしていれば消防士になることができます。

Q： 採用者の中で千葉県外出身の方は毎年どれほどいますか。

A： 過去3年間については次のとおりです。

令和6年度	採用	56人	(うち県外	28人)
令和7年度	採用	44人	(うち県外	17人)
令和8年度	採用	39人	(うち県外	16人)

Q： 千葉県外からの受験でも不利になることはありませんか。

A： 不利になることは一切ありません。
出身地は一切問わず、試験の成績によって合否が決まります。

Q： 採用後の居住地に関する規則はありますか。

A： 居住地を限定する規定はありませんが、有事の際には参集する必要があるため、「職員は職務の遂行に支障を及ぼさないところに居住するよう努めなければならない。」としております。

Q： 船橋市消防局に職員用の寮はありますか。

A： 寮はありませんが、賃貸で住む場合は28,000円を限度に毎月の家賃の金額に応じて住居手当が支給されます。

Q： **高卒と専門卒だと消防士になるにはどちらの方がいいですか。**

A： 当局は、採用試験の合否及び採用後の職務に学歴は一切関係ありません。ご自分のライフプランに合ったタイミングで受験を検討していただければと思います。

Q： **大卒と高卒で違いはありますか。**

A： 学歴及び年齢により初任給、昇給及び昇任に違いがあります。なお、昇任については、当局は階級を上げるための試験があり、最初の昇任試験を受験できるまでの期間は、高卒の方は採用後8年目で、大卒の方は4年目で受験対象となります。

しかしながら、意欲を持って勤務をしていれば、どの様な学歴であっても、**任される仕事の内容に差ができることはありません。**職員の誰もが**消防署長や消防局長になれる可能性があります**ので、是非とも受験してください。

Q： **消防に入る前に、取得しておいた方がよい資格はありますか。**

A： 消防用自動車の多くは車両重量5トン以上であることから、当局は採用にあたり、「**準中型自動車免許**」の取得を**必須**としています。

採用までに取得するか、採用までの取得が困難な方は、採用後1年以内に取得するようになっています。

また、消防業務に関係する免許等については、取得していると採用後の職務に役立ちますが、採用後に公費の助成で取得できる資格もあります。

Q： **取得している資格によって加点されることはありますか。**

A： 保有する資格によって加点されることはありません。

教養試験、体力検査、口述試験のそれぞれの順位で合否が判断されます。

しかしながら、消防業務に役立つ資格を保有しておけば、採用後に携わることのできる業務が増えていくことに繋がっていくと思います。

Q： **現役高校生はどれくらい採用されますか。**

女子高校生でも採用されますか。

A： 当局の試験は性別・学歴を問わず試験の成績によって合否が決まりますので、性別・学歴を気にすることなく頑張ってください。

Q： **既往歴等があっても採用されますか。**

A： 二次試験には健康検査があり、消防吏員として職務遂行に必要な身体及び健康度を検査し、選考時の判断材料の一つとしていますが、その際の健康診断で担当医師の「支障なし」の判断があれば、採用に問題なしと判断できます。

Q： **交替制勤務は女性でもできますか。**

A： 女性が当直勤務可能な施設は現在6か所あり、交替制勤務は可能です。採用後は、男女ともに交替制勤務者として勤務することとなります。

Q： 採用されてからの配属先はいつわかりますか。

A： 採用初日、消防局長から辞令を交付される際に発表され、市内各署所のいずれかの警備隊へ配属されます。

Q： 採用後からの大まかな流れが知りたいです。

A： 採用されてすぐ、約3週間の新規採用職員研修を、主に消防訓練センターにて行い、公務員としての心構えや消防に重要な規律・礼節に重点をおいた教育及び災害対応のための基本的な技術習得のための訓練を行います。研修後、4月末頃に各消防署の警備隊に配属されることとなります。

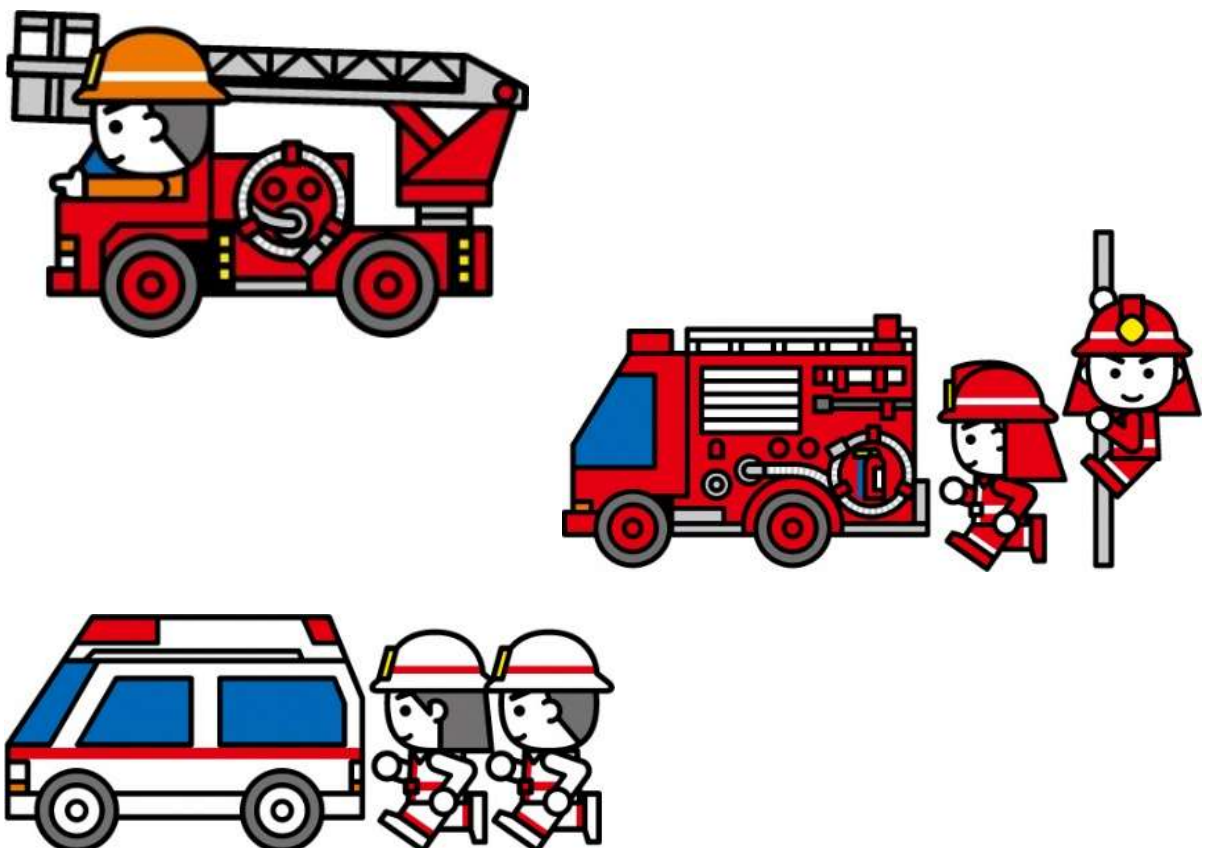
Q： 消防学校へ入る時期はいつですか。

A： 千葉県消防学校への入校は、すべての消防吏員が採用後に入校することとなりますが、近年では、採用人数が多くなっており、入校人数も限られていることから、採用後3年ほどで入校となっています。しかし、前述のとおり新規採用職員研修で災害対応の基礎を教わりますし、各消防署へ配属後は、訓練センターなどを活用して、火災等の災害活動に即した訓練を継続して行うことから、採用後すぐに入校できなくても、消防職員としての実力を身に付けることができますので安心してください。

Q： 前年度の受験者数はどのくらいでしたか。

A： 過去5年間の受験者数等を船橋市ホームページで公表しています。詳しくは、以下のURLからご確認ください。

<https://www.city.funabashi.lg.jp/saiyou/0002/p000507.html>



～ 消防という職業について ～

Q： 消防士として心掛けや徹底すべきことはなんですか。

A： 災害現場では危険かつ過酷な環境下での活動を強いられ、強靱な体力・忍耐力が必要となり、「助けを求めている人を絶対に助ける」という強い意志を持つことも不可欠ですので、日々の訓練や体力向上、自己研鑽を励む心掛けが大切です。

また、勤務時間中はもちろんのこと、休日・夜間であっても大規模地震などの大きな災害があれば出勤しなければなりません。

市内の災害だけでなく、県内や県外で起きた災害へ派遣されることもありますので、常に情報収集に心掛け、準備を徹底しています。

そして、何より、**市民の安全・安心のために職務に従事している**という心掛けが一番大切です。

Q： 消防の業務でどのような時にやりがいを感じますか。

A： 火災で逃げ遅れた方や交通事故により車両から脱出できない方など、助けを求めている方を救助したとき、また、災害現場や業務中に市民の方々から感謝のお言葉をいただいた時には、とてもやりがいを感じます。

Q： 仕事で大変だったことはどのようなことですか。

A： 真夏の猛暑における防火衣及び空気呼吸器を背負っての長時間の火災対応は、熱中症のリスクもあり身体的にも精神的にもとても大変です。

Q： 出動する時に一番大変なことは何ですか。

A： どのような活動が安全・迅速・確実なのか、現場に着くまでの短い時間で考えることが大変だと思います。

しかし、毎日の訓練、自己研鑽及び災害毎に振り返りを行っていくことなど経験を積んでいけば、おのずと対応できるようになっていきますので、そのために毎日経験を積み重ねていくことが大事です。

～ 職場体制及び環境について ～

Q： 新規採用職員への教育は、どのような部分に力を入れていますか。

A： 災害活動は危険を伴うことが多く、当局の全職員は「絶対に殉職者を出さない。」ということを念頭に職務にあたっています。

また、自分自身が怪我をしてしまったり、要救助者になったりすることは、あってはならないことですので、訓練等では厳しく指導することもあります。

但し、メリハリを持った指導が重要であると考えているので、訓練中と休憩中とでオンオフを切り替え、雰囲気の良い職場環境作りを心掛けています。

また、新人消防士は、これからの船橋消防にとって貴重な人財です。先輩方は丁寧に教えてくれますので、安心してください。

Q： **普段はどんな訓練をしていますか。**

A： 自署では基礎的な訓練を繰り返し行っており、訓練センターに出向した際には、応用力の求められる訓練を実施しています。
また、春先から夏前にかけては、夏の猛暑下での活動に備えて、「暑熱順化トレーニング」という暑さに慣れるための訓練を繰り返し行っています。

Q： **救急救命士有資格者はどのような業務に従事できますか。**

A： 救急救命士有資格者で救急隊を希望されている方は、救急隊員になる可能性が高くなると思いますが、当局では採用後しばらくの間、警備隊として従事し、消防の基礎となる知識と技術を習得していただきます。
しかし、全く救急業務に携われないというわけではなく、救急救命士有資格者であれば、採用後一定期間の後に「救急業務に従事するための事前教育」が受講可能となり、警備隊として消防職員の基礎を学びながら、**救急予備隊員として救急業務に携わることが可能**となります。
なお、正式に救急隊員となるためには、千葉県消防学校の初任教育「初任科」の卒業が必要となります。



一方で、有資格者であっても救急隊を希望されない方もいるかと思えます。当局では、有資格者であっても救助隊や指揮隊として活躍している職員がおり、有資格者だからと言って必ずしも救急隊として従事しなければいけないわけではありません。

Q： **救急救命士の有資格者でなくても救急隊になれますか。**

A： 可能です。千葉県消防学校の初任教育「初任科」を卒業後、専科教育「救急科」を卒業すれば、特別な資格を持っていなくても救急隊員になることができます。
また、救急救命士資格取得を目的とした研修所へ、毎年、数人が公費で入所しており、採用時に救急救命士の資格を取得していない方でも、採用後に資格取得できる可能性があります。



Q： **救急需要の増加に伴い対応していることは何ですか。**

A： 転院搬送隊やドクターカーの運用などの他に、自動心臓マッサージ器や12誘導心電図などの高度な救急資器材の整備を行っています。
また、ドクターカーにて搬送する際、病院到着前にタブレット端末にて心電図などのデータを病院で待機するドクターへ伝送し、早期の情報共有などを行っています。

さらに、救急事案が輻輳ふくそうしているときなどには警備隊のうち予め指定されている2隊が非常用救急車隊として救急車に乗り換え救急出動します。

Q： 救助隊になるにはどんな資格が必要ですか。

A： 当局では特別な認定制度は設けておりませんので、保有する資格や学歴に関係なく、希望することで救助隊になることが可能です。



Q： 救助隊になるために必要なことは何ですか。

A： 救助隊員は、より強靱な体力が必要ですので、筋力・持久力のトレーニングに努めることをお勧めします。
また、迅速的確なロープワークも必要不可欠です。
最近では、様々な動画サイトでロープワークの動画が公開されています。
興味のある方は参考に見てみてください。

Q： 水難救助隊になるためにはどうすればいいですか。

A： 救助隊同様、希望することで水難救助隊になることが可能ですが、潜水活動を行うためには、潜水士免許を取得したのち、決められた訓練を実施し、認定される必要があります。



補 足 当局では、年1回の異動希望調査を実施しております。
人事異動は、適性や資格保有状況等を考慮するため、必ずしも希望通りになることは限りませんが、自身の希望を伝えることができます。

Q： 妊娠や出産をした場合、勤務環境はどのように変化しますか。

A： 交替制勤務に従事していた女性職員が妊娠した場合は、母性負担軽減の観点から毎日勤務に配置を変更するなどの対応をします。
また、出産後は育児休業を取得できるほか、復職後も部分休業の取得などライフプランにあった勤務を行うことができます。
さらに、実際に出産を経験した職員で交替制勤務に従事している職員がおりますので、希望によって交替制勤務への復帰も可能です。

Q： 女性と男性で従事する業務に違いはありますか。

A： 原則、違いはありません。災害や訓練等、性別関係なく職務にあたりますので、厳しい訓練も行います。
なお、母性保護の観点から、NBC災害（核、生物、化学物質による特殊災害）への活動については制限がかかります。

Q： 職員同士の親交の深さはいかがでしょうか。

A： 職員数700人の規模である当局は、政令指定都市などに比べて顔の見える関係が築きやすい職場だと思います。
サッカー部、野球部、陸上競技部などのクラブ活動もあり、親交を深めることが可能で、全職員がコミュニケーションを大切にしている職場です。

Q： 消防業務に必要な消耗品は配布されますか。

A： 手袋などの災害活動に必要な消耗品は採用時に貸与されます。
その後は、毎年、職員ごとに必要な消耗品を申請することができます。

～ 採用試験について ～

Q： 教養試験の問題の難易度はどの程度ですか。学歴によって合格に偏りはありますか。

A： 当局においては、学歴や試験区分に関係なく高等学校卒業程度の試験問題となっており、合否に偏りはありません。

Q： 女性の体力検査などの合格基準は男性と異なりますか。

A： 体力検査の基準については、文部科学省が定める「新体力テスト」を基に男女別に定めています。

Q： 体力検査の種目を教えてください。

A： 例年、「反復横跳び」、「上体起こし」、「立ち幅跳び」、「長座体前屈」、「腕立て伏せ」、「シャトルラン」を実施しています。

Q： 体力検査で成績を残すにはどのくらいできていればいいですか。

A： 基準の詳細は公表しておりませんが、文部科学省の「新体力テスト」を基に、どの種目も高得点を取れるようにトレーニングに励んでください。

Q： 合格するために準備をしておいた方がよいことを教えてください。

A： 試験勉強とトレーニングに励んでください。なお、体力はすぐに向上するものではありませんので、早い時期からトレーニングに励んでください。

Q： 面接ではどのような所を見えていますか。

A： 面接の詳細は公表しておりませんのでご了承ください。
なお、どんな職業であっても、面接の試験官は人柄や適性を見ていると思いますので、強い意志と目標をもって対応することが合格への近道となると思います。
また、消防は規律を重んじる職業で、第一印象がとても重要です。入室する前には身だしなみを整え、面接の際には「姿勢正しく」「大きな声で」「元気よく」受け答えすることが大切だと思います。

